

なら はら  
檜 原 遺 跡

県営農地保全整備事業中尾地区（檜原工区）に伴う  
埋藏文化財発掘調査概要報告書(2)



1996.3

宮崎県教育委員会

## 序

日頃より埋蔵文化財の保護、活用に関しては深いご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本書は、清武町と田野町にまたがる中尾地区で進められている県営農地保全整備事業に伴い、本年度事業地の檜原工区で実施した檜原遺跡の発掘調査報告書です。

調査の結果、縄文時代早期の集石遺構や後期の竪穴住居跡などの遺構が検出され、それに伴い縄文土器や石器が良好な状態で出土しました。また、少量ながら古代の土器も出土しています。

それらの概要をまとめた本書が学術資料として、あるいは学校教育や生涯教育の資料として広く活用され、埋蔵文化財保護の一助になることを期待します。

最後になりましたが、調査にあたってご協力いただいた関係諸機関をはじめ、ご指導ご助言をいただいた先生方、ならびに地元の皆様に対し、心より厚く御礼申し上げます。

平成8年3月

宮崎県教育委員会

教育長 田 原 直 廣

## 凡　例

1. 本書は、県営農地保全整備事業中尾地区（橋原工区）に伴う橋原遺跡の発掘調査概要報告書である。
2. 調査組織は次の通りである。

調査主体 宮崎県教育委員会

教　育　長	田原　直廣
文　化　課　長	江崎　富治
課　長　補　佐	田中　雅文
主　幹　兼　庶　務　係　長	高山　恵元
埋藏文化財第一係長	面高　哲郎
主　幹　兼　埋藏文化財 第二係　長	岩永　哲夫
主　事(調査担当)	吉本　正典
調　査　員(嘱　託)	鎌田　次郎

3. 本書で使用した上空からの写真的撮影は、株式会社スカイサーベイに委託した。
4. 本書で使用した図面(図2)の製図は鎌田が行った。
5. 本書の編集・執筆は吉本が行った。

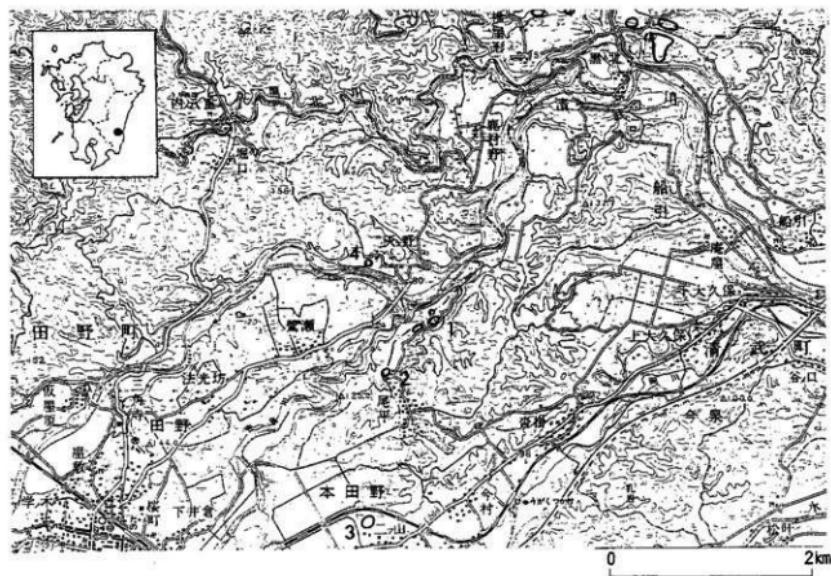
## 目　次

第Ⅰ章　はじめに	1
第Ⅱ章　調査の概要	2
1. 遺跡の位置と環境	2
2. 調査の記録	4
第Ⅲ章　まとめにかえて	8

## 第Ⅰ章 はじめに

中尾地区の県営農地保全整備事業は昭和48年度から平成8年度までの予定で約208haの面積を対象には場整備を行うものである。その中の平成6年度の工事地域内に、清武町と田野町の2町にまたがる遺跡(尾平・檜原遺跡)が存在したため、協議の結果、宮崎県教育委員会が主体となって記録保存のための発掘調査を実施している。平成7年度の工事地域内の遺跡(檜原遺跡)も同じく清武町と田野町にまたがるため、その取り扱いについて関係機関と県教育委員会で協議を行った。その結果、県教育委員会が主体となって、影響を受ける範囲の発掘調査を実施することになった。

発掘調査は平成7年9月4日から平成8年1月31日までの期間実施された。調査対象面積は約14,000m<sup>2</sup>であった。



1. 檜原遺跡

2. 尾平・檜原遺跡

3. ニッ山遺跡

4. 灰ヶ野地下式横穴

図1 遺跡の位置(1/50000地形図『宮崎』より)

## 第Ⅱ章 調査の概要

### 1. 遺跡の位置と環境

橋原遺跡は宮崎郡清武町大字今泉橋原4842-1番地外に所在する。遺跡の立地する台地(標高約100m)は入戸火砕流堆積物(シラス)を基盤とするもので、付近にはところどころに、その性質に起因する急崖が見られる。北緯31° 51' 20"、東経131° 20' 20"付近に位置する。

今回の調査箇所は、昨年度同事業に伴い発掘調査を実施した尾平・橋原遺跡の北東約0.6kmの位置にある。尾平・橋原遺跡の発掘調査では、縄文時代早期の疊群・集石構造と貝殻文円筒形七器、押型文形土器、古墳時代後期の堅穴住居跡などの遺構・遺物を確認している<sup>1)</sup>。

また、近辺にはその他にも発掘調査の行われた遺跡がいくつかあり、縄文時代(特に早期)を中心に多くの資料が得られている。清武町側では時屋地区遺跡群(椎屋形第1・第2遺跡や上の原第2・第3遺跡など<sup>2)</sup>、田野町側では前平遺跡群(芳ヶ迫第1・第3遺跡など<sup>3)</sup>)やニツ山第1遺跡<sup>4)</sup>などが代表として挙げられる。

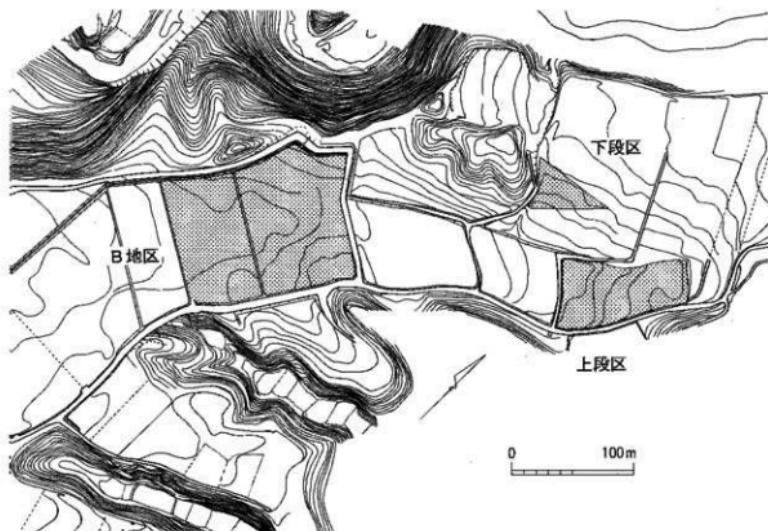


図2 遺跡周辺の地形(1/4000)



写真1 層序



写真2 1号集石(南西より)

古墳時代では、当地域の在地墓制である地下式横穴2基が、田野町灰ヶ野で確認されており、玄室内より蛇行剣などの遺物が出土している。古墳時代後期後半に位置づけられている。

#### (註)

1. 宮崎県教育委員会『尾平・檜原遺跡』1995
2. 宮崎県教育委員会『上の原第2・第3遺跡』1995  
椎屋形第1・第2遺跡・上の原遺跡については、1996年に宮崎市教育委員会により報告書刊行予定。
3. 田野町教育委員会「芳ヶ迫第1遺跡他」『田野町文化財調査報告書第3集』1986
4. 田野町教育委員会「二ツ山第1遺跡」『田野町文化財調査報告書第13集』1992
5. 石川恒太郎「田野町灰ヶ野地下式古墳調査報告」『宮崎県文化財調査報告書第17集』1973

## 2. 調査の記録

調査区は大きく2区域に分かれている。A地区、B地区と称する(図2)。

そのうちB地区の方は、かなり綿密に試掘トレチを設定して文化層の探査を行ったが、アカホヤ層の上面で時期不明の落ち込みが1基、後述するVI層とV層の層界付近から縄文時代早期の属する石鎚が3点見られたのみで、遺構・遺物の密度が著しく希薄であった。このため、調査の主眼をA地区の方に置くことになった。

両地区とともに、当地域の鍋層となるアカホヤ層が、地区内の最高所部分を除いて残存していた。基本層序は昨年度調査の尾平・檜原遺跡とはほぼ同じで、表土の現耕作土をI層、アカホヤ層の上位の黒褐色土をII層、アカホヤ層をIII層、アカホヤ層の下位の黒褐色土、褐色土をそれぞれVI層、V層、やや黄色かかった褐色土をIV層としている(写真1参照)。VI層中には明黄褐色のバミス(「小林輕石」か)を含んでいた。

以下、A地区での検出遺構・遺物を時代別に記していく。

### 縄文時代早期

V層中で集石遺構が5基検出された。下部に浅い土坑を持つものと、持たないものとがある。V層中からは、手向山式や塞ノ神式など早期中葉一後葉に属する土器が多量出土している。石鎚、石匙などの石器も見られた。それらは特に「下段側」の南西隅近くに多かった。

### 縄文時代後期

「上段区」の北東側で、竪穴住居跡と見られる円形の落ち込みが1基確認された。アカホヤ層の上面で検出しておらず、径は約3.4m、検出面からの深さは約0.4m~0.6m程である。中央部に浅い土坑があり、壁近くに計6基の小さいビットがある。遺構内から、市来式系の土器など後期中葉頃のものと推測される遺物が出土している。

### 古代

「上段区」のII層中、「下段区」のI層中から土師器(いわゆる布痕土器も見られる)、須恵器片が出土しているが、ほとんどが微小な破片である。「下段区」については、削平などの後世の影響により、遺物包含層が破壊されたものと考えられる。該期の遺構は検出されていない。



写真3 4号集石(北東より)



写真4 5号集石(北西より)

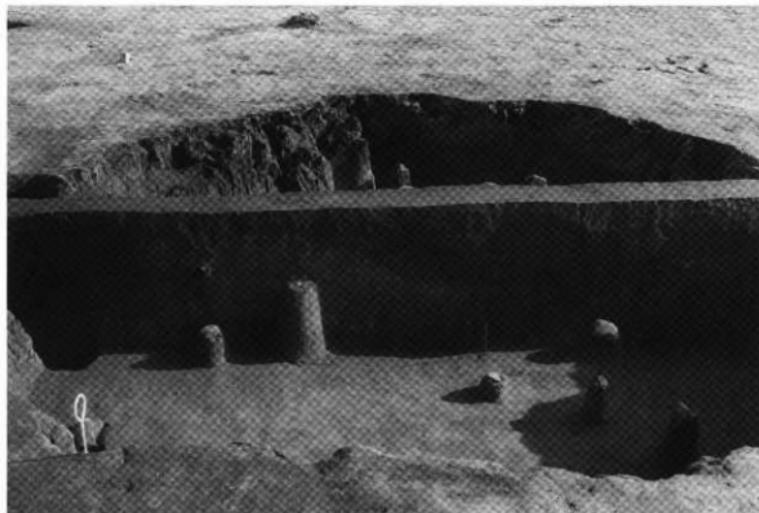


写真5 1号住居跡覆土の状況



写真6 1号住居跡(北西より)



写真7 V層掘り下げ状況(東より)



写真8 B地区トレンチ(南東より)

### 第三章 まとめにかえて

今回の発掘調査でも昨年度のそれ同様、縄文時代早期を中心とする遺構・遺物が確認され、遺跡の広がりを知るための資料を得られることができた。それらの出土状況や位置などについては現在整理中の段階であり、考察も含めて来年度刊行予定の本報告中で公開したい。ここでは、若干の問題点について指摘するにとどめたい。

縄文時代早期に関しては、手向山式や塞ノ神式に伴うと見られる5基の集石遺構の構造が問題となる。特に昨年度調査の尾平・檜原遺跡(桑ノ丸式や縦方向施文の押型文系土器が出土)との形態の比較が焦点となろう。

縄文時代後期の竪穴住居跡については、床面にあまり大きな柱穴が認められず、6基の小ピットを柱穴と考えると、比較的簡易な構造の上屋であったと推測せざるを得ない。地形的制約から(もちろん現在観察することのできる地形という条件付きではあるが)、付近に大きく竪穴住居跡などの遺構の分布域が広がっていたとは考えがたく、規模、存続期間のいずれも小さな集落の一部と考えるのが妥当ではなかろうか。

## 檜原遺跡

県営農地保全整備事業中尾地区(檜原工区)  
に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書(2)

1996年3月

編集・発行 宮崎県教育委員会  
印 刷 藤屋写真印刷株式会社